

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
 担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道125号 <small>にいはいり</small> 新治拡幅		事業区分	一般国道	事業主体	<small>いばらきけん</small> 茨城県
起終点	自：茨城県新治郡新治村 至：茨城県つくば市下大島			延長	3.9 km	
事業概要	一般国道125号は、千葉県佐原市を起点として埼玉県熊谷市に至る延長約151kmの主要幹線道路である。 新治拡幅は、つくば研究学園都市方面への交通量増等に対応することを目的とした延長約3.9kmの4車線拡幅事業である。					
H 6年度事業化	S47年度都市計画決定 (H 年度変更)		H 9年度用地着手	H 7年度工事着手		
全体事業費	約16.5億円		事業進捗率	65%	供用済延長	3.2 km
計画交通量	29,500台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.3 (残事業) 6.4	総費用 (残事業)/ (事業全体) 8/12億円 (事業費：5/9億円) (維持管理費：3/3億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 51/51億円 (走行時間短縮便益：46/46億円) (走行費用減少便益：5/5億円) (交通事故減少便益：0/0億円)	基準年 平成15年		
事業の効果等	・物流効率化の支援（農林水産品（スイカ、トマト等）の流通の利便性向上が見込まれる） ・防災への備え（第1次緊急輸送道路としての機能が確保される） 他6項目に該当（定量的評価項目を含む）					
関係する地方公共団体等の意見	本路線は地域間交流の促進等に重要な役割を担っており、土浦市をはじめとする関係3市1町1村の首長で構成される国道125号整備促進期成同盟会より整備促進の要望（平成15年8月22日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	つくば研究学園都市方面への交通量が増大し、また、沿線に複数の物流施設が立地したことにより大型車交通も増加している。常磐新線の開業により、一層、交通需要の増加が見込まれる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成16年までに用地買収を終了し、現道拡幅区間の工事を進め、平成18年度には全線供用予定である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部において用地補償協議が難航しているが、現在までに約3.2 kmを部分供用している。					
施設の構造や工法の変更等	二次製品の大型化や再生材の利用及び現場発生土の有効利用等コスト縮減を図っている。					
対応方針	対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。